

歴史的建造物の外観からみる地区特性
—新潟市下町・下本町市場周辺を対象として—

正会員 ○岡田 雅行*
同 岡崎 篤行**

歴史的建造物 新潟市 下町
町家 外観 町並み

1. 背景と目的

新潟市下町(しもまち)は新潟島の信濃川河口地域のことを言い、新潟市の中でも歴史が古く、湊町として栄えてきた地域である。歴史的建造物が多く残っている地域であるが、近年、道路拡幅等により、多くの歴史的建造物が失われつつある。全国で歴史的建造物を活用した町づくりが行われており、新潟市下町においても住民による活動が行われてきている。既往研究¹⁾で歴史的建造物の残存率と外観要素の比率がだされておられ、本町通12番町周辺の重要性が明らかとなっている。本研究では本町通12番町周辺を対象地区として、歴史的建造物の残存状況及び歴史的建造物の外観から見られる地区特性、を明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

住宅地図により抽出した553戸の建造物の外観による悉皆調査を行い、歴史的建造物を抽出する。抽出した歴史的建造物においてより詳細な調査を行う。(調査項目:用途、階数、構造、屋根形状、屋根の入り方、葺き材料、壁材料、そ

他の要素、間口、配置形態等)。この調査により得られた結果を基に類型化を行い、歴史的建造物の基本パターン及び地区特性を明らかにする。

3. 歴史的建造物の残存状況

対象地域内の建造物553戸中175戸(32%)が歴史的建造物と判明した。町内別の分布及び残存率は図1のとおりである。残存率では上大川前通12、本町通11・13番町が高いが、戸数では本町通12・13番町が1番多い。

4. 歴史的建造物の外観からみる特徴

(1) 主要通り(南北の通り)に面する歴史的建造物

主要通りに面する建造物は175戸中76戸(44%)であった。屋根形態⁽¹⁾は歴史的建造物の外観に大きく影響することより、歴史的建造物を屋根形態で分類する(図2)。結果、対象地域の主な形態として<切妻・横屋><切妻・堅屋><寄棟・堅屋>の3つに分類できる。又、<切妻・横屋>は2階の高さによって分類でき、<切妻・横屋・2階(高)><切妻・横屋・2階(低)><切妻・堅屋><寄棟・堅屋>の計4パターン(図3)がこの対象地域の

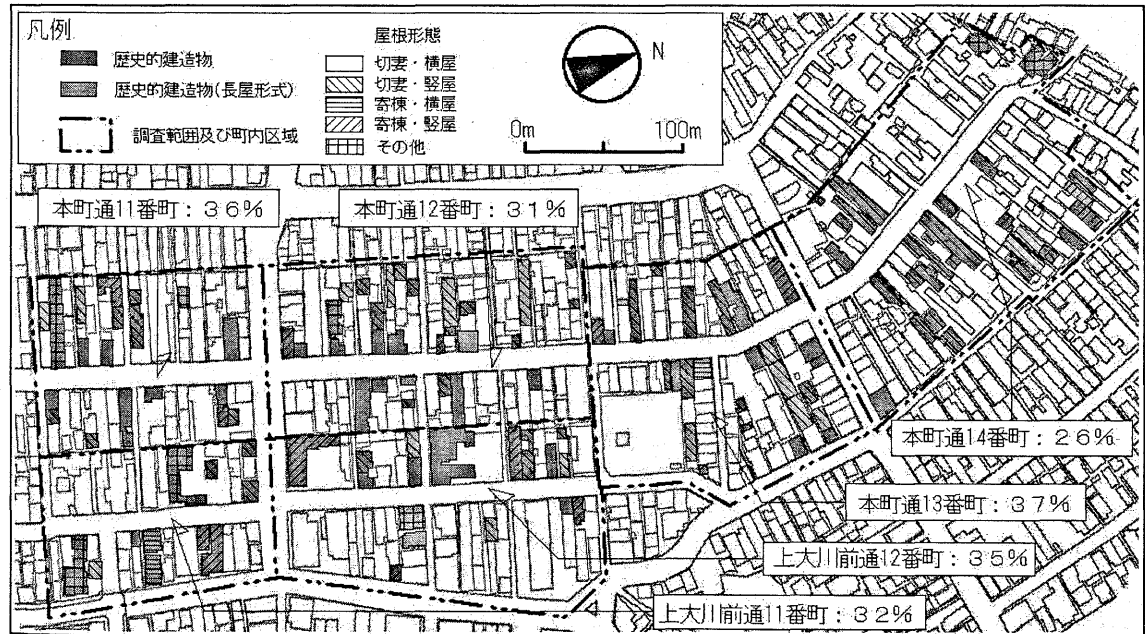


図1 歴史的建造物の屋根形態別分布

Characteristic of districts based on exterior of historic buildings
- A case of Simomachi district in Niigata city

OKADA Masayuki, OKAZAKI Atsuyuki

基本パターンといえる。

＜切妻・横屋・2階(高)＞：間口が2間半・3間半～4間のもが多く、霧除け庇、2階上部壁面が白壁のもが多い。又、せがい造りもこの分類に多い。本町通12番町に多い。

＜切妻・横屋・2階(低)＞：間口が3間半～4間のもが多い。上大川前通12番町に比較的多い。

＜切妻・堅屋＞：間口が4間以上のものが多い。妻面上部が白壁、梁が見えるものがみられる。本町通14番町に多い。本町通14番町は昔、遊郭が栄えていた地域であり、その影響を受けているためと思われる。

＜寄棟・堅屋＞：2階が高く、間口が3～4間のもが多く見られる。壁面材料が堅羽目板のもが比較的多い。

＜その他＞：基本パターン以外では寄棟・横屋、入母屋あり、又、ファサードが洋風な壁で覆われている看板建築もある。上大川前通11番町には基本パターン以外のものが比較的多い。

(2) 小路(東西の通り)に面する歴史的建造物

小路に面している歴史的建造物は、175戸中27戸(15%)であった。切妻・堅屋、2階建て、玄関位置が平側という形態が多い。

(3) 路地に面する歴史的建造物

路地に面している建造物は175戸中72戸(41%)であった。切妻・堅屋、2階建て、玄関位置が平側という形態が多い。又、長屋形式(数戸で1棟)の建造物が多く、48戸・19棟あった。

5. 歴史的建造物の形態からみる特徴

新潟市下町の歴史的建造物の特徴として、通り側が横屋(寄棟・堅屋を含む)で奥側が堅屋の建物(以下＜横屋-堅屋形態＞)がある(図4)。元々下町の町並みは切妻・堅屋であったが、明治初期に通り側は横屋にするという建築制限が行政から出され、その影響を受けたと思われる。

調査の結果、歴史的建造物175戸中35戸(20%)が、＜横屋-堅屋形態＞であった。又、＜横屋-堅屋-横屋(蔵)＞のような形態も見られたが、35戸中25戸(71%)が＜横屋-堅屋＞のような形態をしており大多数を占めている。又、この形態は主要通りに面する場合のみにみられ、特に本町通に多い。又、基本パターンの、＜切妻・横屋・2階(高)＞の建造物に多く、せがい造りのほとんどがこの形態をしている。

6. 結論

(1) 対象地域において歴史的建造物は32%残存しており、どの町内も約3割が歴史的建造物である。本町通12・13番町に多い。

(2) あまり広くない対象地域であるが、町内により屋根形

態及びファサードに差がみられ、地区ごとの特性がある。

(3) 対象地の歴史的建造物は基本パターンとして、＜切妻・横屋・2階(高)＞＜切妻・横屋・2階(低)＞＜切妻・堅屋＞＜寄棟・堅屋＞の4パターンに分類できる。

(4) 小路・路地に面している歴史的建造物は、形態が切妻・堅屋、2階建て、玄関位置が平側というのが特徴である。路地に面している歴史的建造物は更に長屋形式で2～4戸で1棟の形態が特徴である。

(5) 下町の歴史的建造物の特徴の1つである＜横屋-堅屋形態＞は主要通りに面している建造物のみに見られ、＜切妻・横屋・2階(高)＞の建造物に多い。又、せがい造りの大多数が＜横屋-堅屋形態＞である。

【補注】

(1) 本研究においては、主要通り(本町通、上大川前通等の南北の通り)に対して、大棟が平行ならば横屋、直角ならば堅屋と定義する。

【参考文献】

1) 水嶋貴之、岡崎篤行、樋口忠彦 「新潟市下町における歴史的建造物の残存状況と地区特性」 日本建築学会学術講演梗概集 F-1分冊 pp.495-496 2002年

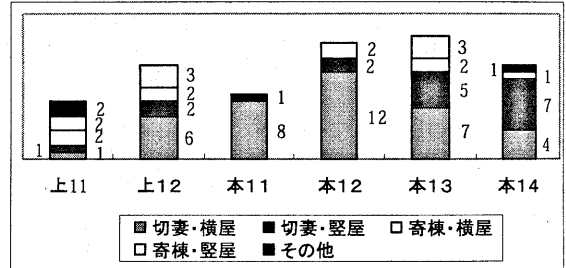


図2 歴史的建造物の屋根形態別分布

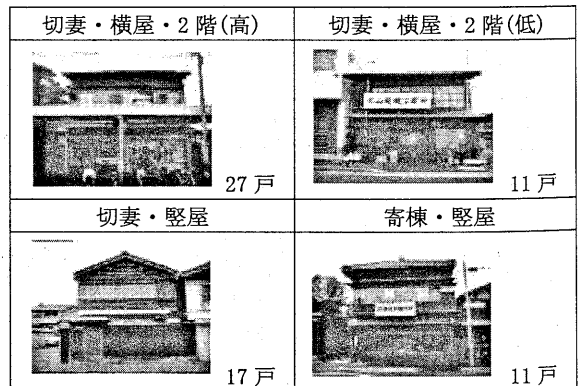


図3 主要通りに面する建造物の基本4パターン

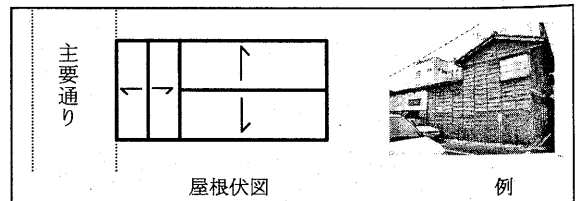


図4 <横屋-堅屋形態>

*新潟大学大学院自然科学研究科 博士前期課程
**新潟大学工学部建設科 助教授・博士(工学)

*Graduate Student, Graduate School of Science and Technology, Niigata Univ.
**Assoc.Prof., Dept. of Civil Eng. and Arch., Faculty of Eng., Niigata Univ., Dr.